

令和 7 年度 第 1 回 朝日地域振興懇談会

日 時 令和 7 年 9 月 1 2 日 (金)

午後 6 時 3 0 分開会

場 所 朝日庁舎 2 階

第 1 ・ 2 ・ 3 会議室

次 第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 会長・副会長の選出

4. 報 告

(1) 令和 6 年度第 2 回朝日地域振興懇談会での意見への対応について

資料 1 ～資料 2

(2) かたくり温泉ぼんぼの現状について

資料 3

5. 懇 談

(1) 地域振興課事業について

・ 第 2 次過疎計画の策定について

資料 9

・ 次期鶴岡市地域公共交通計画策定について

資料 1 0

(2) 令和 7 年度朝日庁舎主要事業について

・ 令和 7 年度朝日庁舎主要事業

資料 4 ～資料 7

・ 令和 7 年度朝日地域まちづくり未来事業

資料 8

(3) その他

6. そ の 他

7. 閉 会

令和6年度第2回朝日地域振興懇談会での意見への対応について

資料1

No.	委員意見	意見に対する対応	担当課
1	朝日地域の公共交通事業について ・公共交通の再編に関連して、下村口のバス停留所で、あさひバスから庄内交通の落合線に乗り換えることになるが、下村口のバス停留所に待合所などの整備は考えているのか。 ・デマンドカーを利用する際、予約時にLINEなどは使えないのか。ファックスや電話で予約するとの説明だったが、これからはLINE予約などに移行していくべきだ考える。	あさひバスは主に高校生が利用しており、下村口のバス停留所で庄内交通の落合線に乗り換えています。住民説明会でも同様の質問がありましたが、下村口にバス待合所や駐輪場の設置等は考えておりません。現在は、乗り継ぎ時間まで、あさひバスの車内で待機していただいています。 公共交通のオンライン予約については住民説明会でも同様のご意見をいただきました。システム導入経費は高額であり、LINEやフォーム等による予約システムは、市全体の課題として捉え、今後、本所担当課とも相談していきたいと考えております。	地域づくり推進課
2	消火栓ホースについて ・消火栓ホースの質問に対する回答について、自主防災会で点検するとの記載になっているが、一般の方は消火栓を開けられないはずである。このような点検は、やはり消防関係で行ってほしい。消防署朝日分署で確認すれば、すぐ判断でき、そのまま修理なり更新ができる。素人が確認しても判断できないと考える。	消火栓は地域住民の皆さんも使用することができ、有事の際は消防署員や消防団が到着する前の初期消火において重要な設備です。 自主防災訓練で消火栓を活用した訓練を実施している集落もありますので、日頃からの点検や訓練にご協力をお願いします。	地域づくり推進課

No.	委員意見	意見に対する対応	担当課
3	タイ「子どもの村学園」国際交流事業について ・この派遣事業は非常に長い歴史がある。一方で、市町村合併から20年にもなる状況から、全部本所の業務として移管してはどうか。本所には国際交流の主管課があることから、そこで幅広く対応した方が良いと考える。朝日にもこれまで交流したノウハウを持つ人が多くいるため、そのような方も活用しながら、本所で一本化して、もっと幅広く市民全体に呼びかけるような方法をとった方が、より充実した事業となるのではないかな。	令和6年度のタイの国際交流事業は、派遣された生徒8人のうち、朝日地域の生徒は高校生1人で、ほか7人は鶴岡市内の参加です。 派遣事業の予算計上や派遣生徒の募集は、本所主管課と連携し既に市全体で対応しています。なお、交流につきましては旧朝日村時代からのつながりもあることから朝日庁舎主体となっていますが、交流の一本化も引き続き検討してまいります。	地域づくり推進課
4	朝日地域からの転出要因について ・朝日地域から転出する理由については、雪の関係など様々な要因があると思うが、これまで転出する理由について調査したことはあるのか。転出する理由を把握することで、世帯減少率を減少させる対策を講じることができると考える。あわせて、今後の傾向を推察することも可能である。転出する理由について対策することは様々な事業に関わってくるため、転出する理由の実態調査を実施した方が良いと考える。	現在、市民窓口において転入者のアンケートはお願いしていますが、転出理由の聞き取りは行っておりません。 一方で、朝日地域においては転出理由の分析は非常に大切なことと捉えておりますので、支障のない範囲で、転出者に対してどのような取組が協力いただけるか検討していきたいと考えております。 併せて、朝日地域からの転出や鶴岡市内への転居者の性別、年齢、移動先等を調査し、傾向と分析は行ってまいります。	地域づくり推進課

No.	委員意見	意見に対する対応	担当課
5	新たな雪対策について ・玄関前の除排雪や、屋根の雪おろし支援など、要望しても意見を言っても、市全体の基準に合わせられ、実現しない。雪のアンケートを基に、朝日独自の施策や市全体として雪が多い地域にもっと手を差し伸べる施策を講じるよう、本所でも、庁舎でも、働きかけていただきたい。 ・朝日地域助け合い玄関前除雪支援事業については、予算がずっと同額ではなかったかと認識している。これまでも予算が不足だと意見しているはずであり、朝日中央地区自治振興会では、予算が足りない部分をコミセン独自の事業として実施している状況である。このことについて本所とも十分に検討していただき、朝日の実態を訴え、新たな雪対策をぜひ実現していただきたい。	助け合い玄関前除雪支援事業や高齢者世帯等への屋根の雪おろし支援など、既に実施している制度の見直しは難しい状況にありますので、朝日地域独自の事業や別の支援策を検討することが必要と考えております。 朝日地域の全世帯を対象に実施した令和6年度の雪に関するアンケートでは、雪の大変さとして最も多かった回答が「屋根の雪下ろし」でしたので、特に、この点への支援策を重点的に検討していきます。アンケート結果の更なる分析を進め、既存の雪対策とも調整を図りながら、朝日地域の実態に即した新たな雪対策の実施を目指します。	地域づくり推進課
6	窓口業務のデジタル化について ・社会情勢も変化しているなか、高齢化への対応として窓口のデジタル化を推進していこうということで、非常にいいことだと思われる。これに伴い、市民福祉課の窓口のデジタル化が中心だと考えるが、本所との関わりのなかで届出で済むような業務もデジタル化していただきたい。このような検討をお願いし、デジタル化の幅を広げ、単なる届出で済むような手続きは部署が違ってでもできるような形をお願いしたい。	現在は、タブレットや遠隔システムを使って行政手続きの簡略化を進めていますが、スマホを使ったLINE申請やマイナポータル利用による手続きを更に促進してまいります。 朝日庁舎で先行して取り組んでいるデジタルシステムの効果を検証し、本所と連携して、引き続き各分野におけるデジタル技術の有効活用を図っていきます。	地域づくり推進課

No.	委員意見	意見に対する対応	担当課
7	朝日地域住民の働く場について ・朝日地域の住民は、生活するための働き場として90%以上の方が朝日地域以外で働いている。そのため、住民の働く場が一体どうなっていくのか、例えば、工場誘致について新聞等でも報道されているが、その説明をしていただきたい。朝日地域のことでないにしても、働く場は生活と密接な関係があるため、本所所管ではありながらも、そのような説明をしていただきたい。働き場について、市全体の共通するものについては、次回からぜひ紹介をお願いしたい。	【資料2参照】 本市には11(鶴岡中央、鶴岡東、鶴岡西、鶴岡鉄工、鶴岡大山、藤島南、櫛引東、櫛引西、庄内南、赤川、庄内あさひ)の工業団地がありますが、交渉中を除いた分譲できる用地面積は、鶴岡大山工業団地の約4haのみとなっております。 若者が働ける場づくりとして、また市内企業の建て替えや事業拡大の受け皿として、市では鶴岡西工業団地の隣接地に新たな産業団地約15haの造成を進めております。 令和9年度内の分譲開始に向け、今月から造成工事に着手したところです。	商工課
8	こどもの遊び場整備について ・健康の里ふっくらにおけるこどもの遊び場整備として、トルネード状のすべり台のイメージ写真がある。個人的な感想として、このような遊具は不具合などにより数年後には掃除もされず、廃れていく未来が見える。実際、保育園、小学校、中学校いずれからも遠く、親が運転する車で温泉に来て、ここで遊んでいくのかどうか。よほど遊ぶものが魅力的なものでなければ、この遊び場はうまく機能しないのではないか。	令和7年度より、まちづくり未来事業として「朝日地域拠点形成事業」を計上しております。健康の里ふっくらを拠点とした「健康・生きがい・交流」の機能を備えた施設を整備するため、関係者からの意見を聴取し整備の方向性をまとめてまいります。	産業建設課

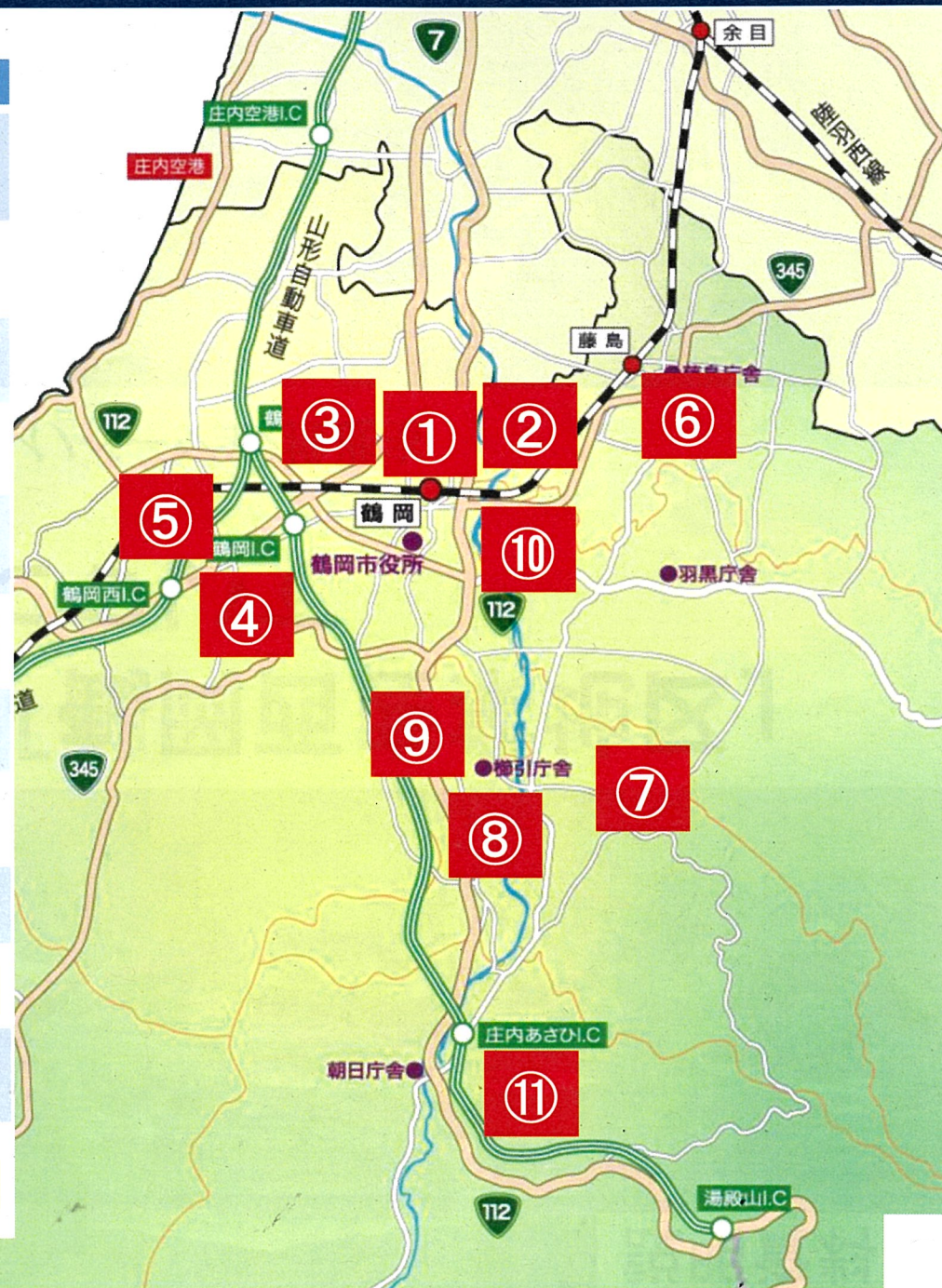
No.	委員意見	意見に対する対応	担当課
9	拠点形成事業に関連して ・ただのアイディアではあるが、とんでもなくダラダラできる温泉施設にしてはどうか。例えば暗室があって、ネットも完全に遮断して電話もかかってこない。そのうえ漫画がやたら置いてある空間はどうか。究極の憩いの場で、朝日の皆さんが雪下ろしで疲れた腰を癒せるようなマッサージチェアがたくさん置いてあり、横になってゴロゴロ寝られるような場所もある。滞在時間が長くなるような、R天国ではないが、極楽天国のような感じに振り切ったコンセプトの施設の方が、地元の方々以外にもお客さんが来ると思われる。そうすることにより、産直が活き、産直のご馳走やご飯が活き、温泉が活きるのではないか。	No.8と同様に、令和7年度よりまちづくり未来事業として「朝日地域拠点形成事業」を計上しております。温泉施設は休業しておりますが、健康の里ふつくらを拠点とした「健康・生きがい・交流」の機能を備えた施設を整備するため、関係者からの意見を聴取し整備の方向性をまとめてまいります。 今までにない斬新な意見であり、参考にさせていただきます。	産業建設課
10	空き家対策について ・管理されていない空き家については屋根の雪下ろしが適切に行われず、倒壊につながるおそれがある。落合地区にある空き家は屋根が抜け、隣接する方が不安を感じていると思われる。空き家対策について、落合地区のように家屋が連担しているところは非常に危険がある喫緊の問題と考える。今後の空き家対策についてどのように考えているのかお聞きしたい。	空き家の所有者には、電話で適切な管理をお願いするとともに、解体等に係る補助金の案内を行っていますが、いずれも解体等がなかなか進展しない現状です。引き続き、根気強く所有者に働きかけ、少しずつでも片付けてもらえるように連絡をしていきたいと考えています。 空き家対策は朝日地域だけでなく、市全体でも大きな課題となっていますので、今年度は空き家の実態調査を実施しており、危険な空き家が何棟あるのか、どのような状態なのか、ランク付けを進めています。 いずれにしても、危険な空き家については早めに情報をいただきたいと考えております。状況に応じて、市と消防署朝日分署が連携して対応させていただきます。	地域づくり推進課

鶴岡市内の工業団地等の状況

令和7年9月12日

朝日地域振興懇談会

団地名	工業用地面積 (ヘクタール)	操業	未分譲面積
		面積(ヘクタール)	(未操業面積)
①鶴岡中央	45.1	45.1	0.0
②鶴岡東	20.6	20.6	0.0
③鶴岡西	13.4	13.4	0.0
④鶴岡鉄工	14.8	14.8	0.0
⑤鶴岡大山	23.5	15.3	6.4
⑥藤島南	7.8	7.8	0.0
⑦櫛引東	4.3	4.3	0.0
⑧櫛引西	8.6	8.6	0.0
⑨庄内南	21.9	21.2	(0.7)
⑩赤川	9.8	9.8	0.0
⑪庄内あさひ	2.4	1.9	0.5



※令和6年4月現在

新産業団地(鶴岡西産業地区)の造成について

令和7年9月12日
朝日地域振興懇談会

①産業団地の開発により期待される効果

市内事業所の市外流出防止と雇用の維持安定

市内工業団地の分譲地は残り少なく、事業所の建て替えや事業拡大への受け皿となり、市内事業所の市外流出防止と雇用の維持安定に寄与

研究機関や関連企業との連携による企業立地

鶴岡西工業団地隣接地は、バイオサイエンスパークに近接しており、研究機関や関連企業との連携による企業立地への期待

②産業団地整備に関する進捗状況

◎産業団地開発（委任先：鶴岡市開発公社）

【令和7～9年度 造成工事】

令和7年9月から造成工事に着手
令和9年11月頃までの工期を想定

◎産業団地・事業用地の売却見通し（スケジュール）

【令和6年度】第1次募集（5～7月）

- ・立地希望企業を募集し、複数の企業に内定通知
- ・内定企業の分譲予定面積の合計は全体の7割程度

【令和7年度】分譲価格の決定

【令和8年度】内定企業と仮契約等の締結、立地見通しの公表、第2次募集

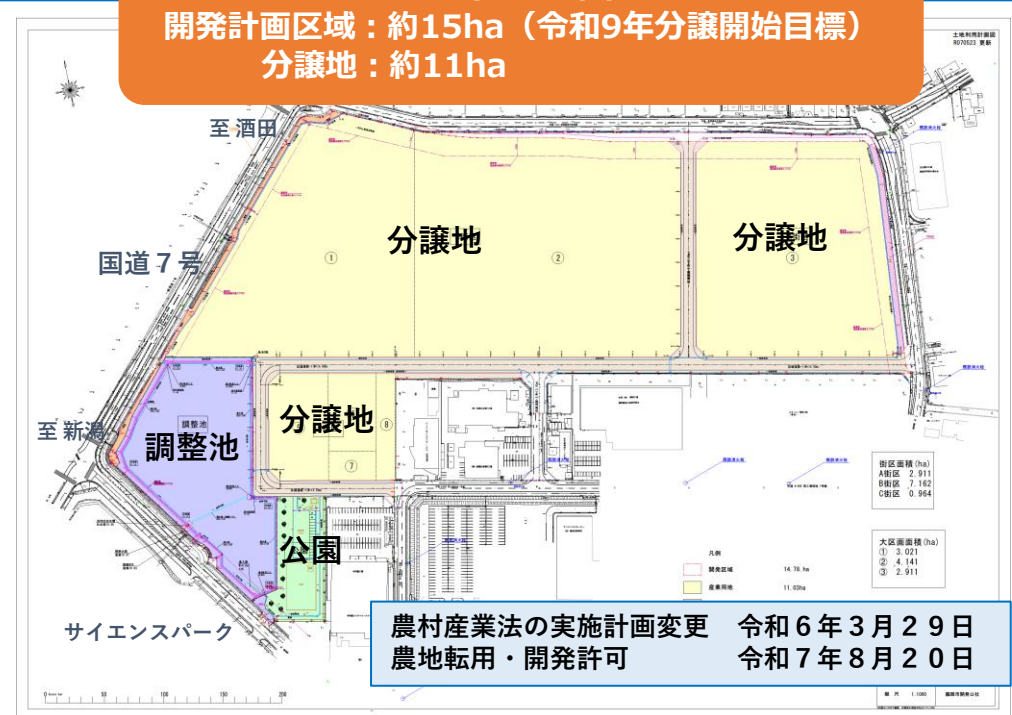
【令和9年度】事業用地の引き渡し（本契約）

※最短で令和9年12月頃を想定

土地利用計画図

開発計画区域：約15ha（令和9年分譲開始目標）

分譲地：約11ha



整備スケジュール（予定）

開発業務内容	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
○行政手続き 農村産業法の実施計画変更、 農振除外、農地転用、開発許可	→				
○設計関係 用地測量、ボーリング調査 実施設計		→			
○工事関係 造成工事、公共施設工事			→		
○事業用地売却 分譲地の企業への売却				価格公表 ●	仮契約 ● 本契約 ●

1. これまでの経過

- ・源泉の濁りと水温の低下により5月18日(日)から営業休止している。
- ・専門業者の調査では、井戸の老朽化による損傷が激しく、現在の井戸の改修では温泉機能を回復することができないとの報告を受け、井戸の修繕は行わないこととした。
- ・新たな源泉井戸の再整備は、技術的な検討に時間が必要であり、また多額の費用（約3億円）を要することから、今後、復旧する場合には数年かかる見込みである。

2. 令和7年度の施設運用

- ①温泉入浴事業…休止
 - ②介護予防事業
「いきいきぼんぼ」やフレイル予防事業等は継続実施
 - ③地域振興に資する事業
テントサウナやマルシェ等のイベントを開催
- ※市では運営主体（NPO法人こみっとAFC）の活動支援を継続する。

3. 運営主体（NPO法人こみっとAFC）との使用賃貸借契約及び今後の対応

（1）契約内容

- ・契約期間 令和6年4月1日～令和9年3月31日（3年間）
- ・貸付料 NPO法人は公共的団体に該当のため無償貸付
- ・用途指定
 - ①温泉入浴事業
 - ②健康増進事業
 - ③介護予防事業
 - ④地域振興に資する事業

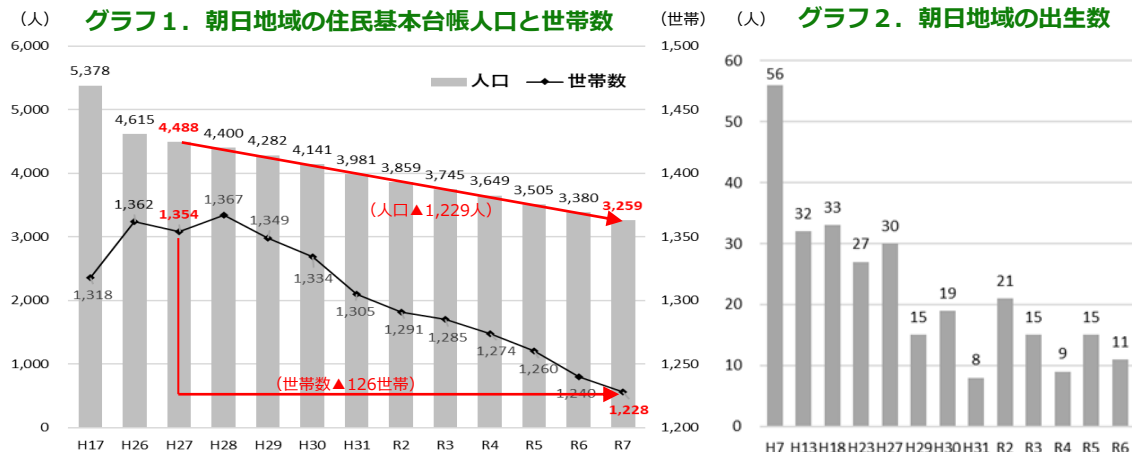
（2）今後の対応

- ・市ではNPO法人の活動を支援しながら施設の貸付は継続し、活動内容についても一緒になって検討していく。
- ・隣接する「健康の里ふっくら」の利用団体とも調整し、「ぼんぼ」との一体的な活用や老朽化した施設の改修を検討する。

現 状

1. 過疎化・少子高齢化による人口減少

- ◆10年間（H27→R7）で人口は1,229人減少、世帯数は126世帯減少…グラフ1
- ◆令和6年の出生数11人…グラフ2 →若者世代の減少により地域活力が低下



◆生産年齢人口の減少が深刻で共同作業の担い手不足

◆10年間で高齢化率が12.75ポイント上昇…表

→集落機能の維持が困難

◆農林業従事者の高齢化と後継者不足

→山林・農地の荒廃の心配、鳥獣被害の増加

2. 豪雪地帯という厳しい定住環境

◆高齢化が進行し屋根の雪下ろし作業や家屋の維持管理が困難

◆豪雪を要因とする転出者が増加

表. 朝日地域の年齢3区分別人口・構成比

区分	平成27年3月末現在		令和7年3月末現在	
	人口	構成比	人口	構成比
0～14歳（年少人口）	430	9.58%	237	7.27%
15～64歳（生産年齢人口）	2,442	54.41%	1,433	43.97%
65歳以上（老年人口）	1,616	36.01%	1,589	48.76%
計	4,488	100.00%	3,259	100.00%

課 題

- 地域や農・林・観光業を支える人材育成が急務
- 定住のための生活環境整備や地域・団体・行政との協働により地域を支える仕組みづくりが必要
- 地域の“強み”をさらに活かした産業振興が必要

【取組方針】中山間地域の暮らしを守り、支える取組を推進

暮らしを守る
〈定住対策〉

□ 中山間地域における定住環境の支援

暮らしを支える
〈産業振興〉

- 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興
- 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

令和7年度 重点事業

1. 中山間地域における
定住環境の支援

- ・交通輸送対策事業
- ・窓口業務デジタル導入推進事業
- ・朝日地域共創プロジェクト支援事業
- ・大泉地域ビジョンスタートアップ支援事業
- ・かたくり温泉運営支援事業

2. 森林資源、自然環境などを活用し、
中山間地に特化した農林業の振興

- ・朝日地域山の恵み産地化事業
- ・朝日地域拠点形成事業

3. 自然、文化、風土など、地域資源
を活用した付加価値の高い産業振興

- ・あさひ自然体験交流施設管理運営事業
- ・大鳥池避難小屋衛星通信実証実験事業
- ・六十里越街道魅力発信事業

令和7年度 地域まちづくり未来事業

☆…新規・拡充

暮らしを守る
〈定住対策〉

1 次世代へつなげる活力を育む地域コミュニティづくりの支援

- ・朝日地域若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト事業
- ☆大泉地域ビジョンスタートアップ支援事業

2 地域の実情や需要に応じた地域内交通の確保

- ・朝日地域大鳥地区移動支援モデル事業

3 豪雪地帯における克雪対策への支援

- ・朝日地域助け合い玄関前除雪支援事業

4 地域で支え合う福祉支援体制の充実

- ・かたくり温泉運営支援事業
- ・朝日地域フレイル予防事業

5 中山間地域の課題解決に向けたデジタル技術の活用

- ・朝日地域共創プロジェクト支援事業

暮らしを支える
〈産業振興〉

1 中山間地域における持続可能な農業経営への支援

- ☆朝日地域拠点形成事業

2 農地・山林保全による農林業生産活動と農村集落機能維持

- ・朝日地域山の恵み産地化事業

3 観光団体等との連携による地域資源活用の推進

- ☆大鳥池避難小屋衛星通信実証実験事業
- ・朝日地域観光あいのりタクシー運行事業
- ☆六十里越街道魅力発信事業
- ・松原二ノ俣峠越山道復元事業

＜事業の目的＞

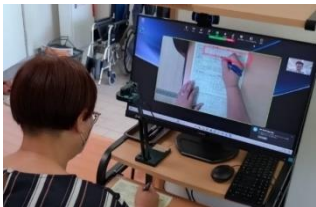
デジタル技術を活用した行政手続きのオンライン化と行政手続きを住民が利用する接点(フロントヤード)の多様化・充実化を推進するため、以下の4つのシステムを朝日庁舎地域づくり推進課くらしサポート室に先行導入し、実証結果を踏まえ本所や他庁舎への展開を目指す。

◎遠隔行政手続サービス

①南出張所: R4.1.20より開始 ②大網診療所: R6.8.1より開始
庁舎に行かずに住民票、印鑑証明書、戸籍・税務関係の証明書の相談、交付が可能。

【利用実績】①南出張所 R4:64件、R5:39件、
R6:44件、R7:15件(7月末現在)
②大網診療所 R6:21件、R7:5件(7月末現在)

大網診療所・南出張所



朝日庁舎



遠隔行政
システム

◎セブン銀行ATM端末

R6.11.19より開始

現金の取引のほか、電子マネーのチャージ、マイナンバーカードへの健康保険証利用の申込が可能。

【保険証登録実績】 R6:56件、R7:5件(7月末現在)



◎タブレット端末(書かない申請)

R6.12.9より開始

タブレット端末にマイナンバーカードをかざすことで、申請書に住所、氏名、生年月日等が自動的に印字され、手書きすることなく各種証明書の申請交付が可能。

【利用実績】 R6:112件、R7:20件(7月末現在)



◎行政証明書発行端末(キオスク端末)

R7.6.30より開始

キオスク端末にマイナンバーカードをかざすことで、住民票、印鑑証明書、戸籍謄抄本、所得・課税証明書の交付が可能で、手数料が窓口交付の約半額となる。

【利用実績】 6月:2件、7月:49件



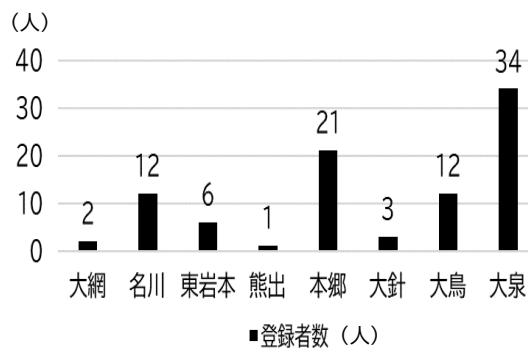
『あさひバス』・『あさひデマンドカー』の運行状況について

7月～8月末時点
登録者数

カタクリ号会員登録者数

96名

地区別登録者グラフ



登録状況

- ・説明会を実施した本郷と大泉の登録者が多い。
- ・熊出は庄交バスが通っているため登録者が少ない。
- ・大網の登録者数が少ない。

7月～8月末時点
利用者数

①あさひバス上田沢線「タキタロウ号」

全体の利用者数 : 91人 (R6: 341人)
 朝 便 平 均 : 2.0人/日 (R6: 4.8人)
 夜 便 平 均 : 0.2人/日 (R6: 4.4人)

②あさひバス大網線「がっさん号」

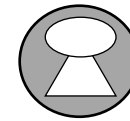
全体の利用者数 : 149人 (R6: 317人)
 朝 便 平 均 : 2.7人/日 (R6: 3.8人)
 夜 便 平 均 : 1.0人/日 (R6: 3.9人)

③あさひデマンドカー「カタクリ号」

全体の利用者数 : 194人 (R6: 238人)
 南 部 方 面 平 均 : 2.8人/日 (R6: 4.0人)
 東 部 方 面 平 均 : 2.0人/日 (R6: 1.8人)

特徴

- ・R7あさひバスとR6庄交バスを同一区間で比較し、利用者数は減少している。
- ・あさひバスの夜便は朝便と比較し、保護者の迎えが多いことから利用が少ない。
- ・高校生の夏休み期間と重なったため、通常の月よりも利用が少ない。
- ・あさひデマンドカーは運行開始時点で市営バスの利用があった方全員の登録ができておらず、利用が少ない。



住民の声

- ・エスモールまでの乗り継ぎ案内表を作成してもらいたい。
- ・乗り継ぎなしで市内まで行ってもらいたい。
- ・令和8年度からの世帯負担金があることが分らなかった。
- ・バス・デマンドカーの利用の方法が分からない。
- ・友人と買い物に出かける手段ができ、楽しみが増えた。
- ・利用料金が安く利用しやすい。

今後の方向性

- ・アンケートや聞き取り調査を実施し、より利用しやすい時刻設定・運行ルートを把握し見直しを検討していく。
- ・利用者数の増加につなげるため、利用が想定される人に対して個別で対応していく。
- ・利用促進につなげるため、スタンプカードの作成やツアーの開催など、新しい企画を検討していく。

資料 7

令和7年9月12日
朝日地域振興懇談会

鶴岡市朝日庁舎

湯殿山スキー場 R天国推進室



鶴岡を代表する冬季の観光施設を目指します ～湯殿山は進化する～

朝日庁舎に湯殿山スキー場やキャンプ場の活性化を推進するため「R天国推進室」を設置しました。

R天国とは、パークデザイナーがR形状の壁を造成した天国のようなコースのこと（Rとはラディウス（半径）のこと）

湯殿山スキー場の現状

□ R形状のユニークなゲレンデが特徴で、ジャンプやトリックを楽しむボーダーに人気があり、庄内地域のみならず全国各地から訪れています。

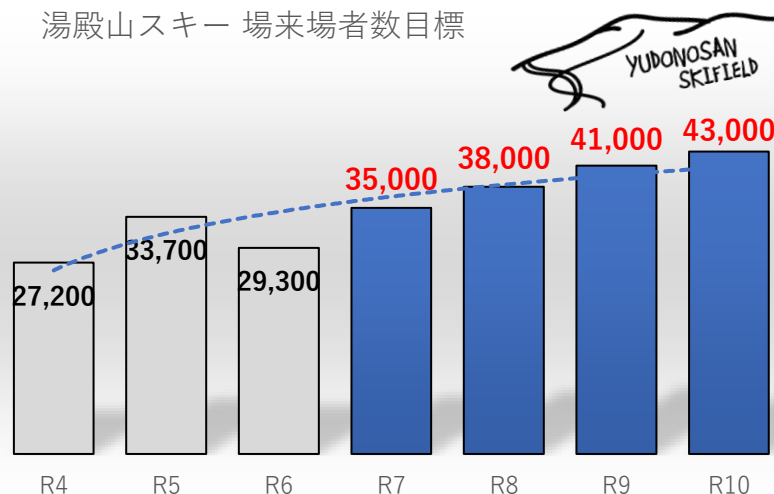
湯殿山スキー場のこれからの取組

□ R天国の宣伝をはじめ、SNS等を活用した全国のスキー・スノーボーダーへの呼び込み、市内スキー場との連携を強化します。
□ 地域おこし協力隊による湯殿山エリアの通年活用や、資源を活用したランドデザインを進めます。
□ 施設の段階的な整備計画を進めます。（ゲートシステムやリフト搬器修繕、圧雪車購入、ヒュッテ丸森改築計画等を予定）

現在の状況について

□ スムーズなリフト乗車が可能となるICゲートシステム、第1ロマンスリフトの搬器修繕はスキーシーズンまでに完了する予定。湯殿山エリアの活性化を目的とする地域おこし協力隊はまもなく募集を開始する予定です。

湯殿山スキー場来場者数目標



R天国推進施設整備

○第2ロマンスリフト更新（R4）

○駐車場一部舗装（R5）

○圧雪車更新（R6）

○駐車場全面舗装（R6）

ICゲート導入

リフト搬器修繕

第1ロマンスリフト原動機OH

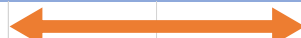
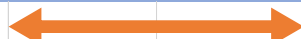
圧雪車の更新

ヒュッテ丸森改築計画策定

R7

R8

R9



資料 8

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業の取組状況

No	事業名	事業内容	予算額 (千円)	事業 期間
1. 中山間地域における定住環境の支援				
1	朝日地域若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト事業	若者が集い語らい、交流活動を通して行う地域・人づくりを支援	400	R3～
2	朝日地域大鳥地区移動支援モデル事業	大鳥地区の住民向けに試験的に実施する移動支援事業を支援	433	R6～
3	朝日地域共創プロジェクト支援事業	自治振興会が取り組むデジタル人材育成事業、地域住民を対象にしたスマホ教室実施を支援	280	R5～
4	朝日地域助け合い玄関前除雪支援事業	広域コミュニティ組織が行う高齢者世帯等の玄関前除雪事業への支援	330	R1～
5	大泉地域ビジョンスタートアップ支援事業【新規】	地域の振興を目的に策定された「大泉地域ビジョン」を推進するための取組に対する支援	545	R7～
6	かたくり温泉運営支援事業	温泉利活用による地域住民の健康増進とコミュニティ活動の充実を図り、暮らしやすい地域づくりを推進するため、温泉運営を支援	10,500	R6～
7	朝日地域フレイル予防事業	地域住民同士が支えあい、健康長寿の延伸とフレイル予防推進のため、高齢者を対象とした介護予防事業及び高齢期前の年代を対象としたフレイル予防事業を実施する事業者への支援	2,000	R6～
2. 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興				
8	朝日地域山の恵み産地化事業	団体が行う販売目的の特産品収穫出荷等への支援 特産品の創出、生産拡大・維持の取組、地域特産物の収穫栽培技術研修・体験イベント開催への支援	1,600	R1～
9	朝日地域拠点形成事業【新規】	産直あさひ・グーの「ふっくら」移転に伴う、かたくり温泉ぼんぼ及び各種活動団体との施設利用に関する検討	610	R7～
3. 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興				
10	大鳥池避難小屋衛星通信実証実験事業【新規】	大鳥池避難小屋の敷地内に衛星通信機器を設置することで、Wi-Fi環境を整備し、朝日連峰登山客の安全と利便性を確保する実証実験	820	R7～
11	朝日地域観光あいのりタクシー運行事業	登山・観光シーズン中の二次交通確保の取組	850	R5～
12	六十里越街道魅力発信事業	六十里越街道の魅力を更に広く効果的に情報発信する取組や、地域の歴史的資源を次世代へ伝える取組への支援	550	R4～
13	桧原二ノ俣峠越山道復元事業	登山道利用を目指し、関係団体へ刈払い、看板設置等への支援	100	R4～
			19,018	

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	朝日地域若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト支援事業
事業目的	地域課題解決に向けて主体的に取り組む若者組織の育成を支援する。
事業概要	令和3年度に立ち上がった「チームWaGeSho(わけしょ＝若い人)」が行う、若者が集い語らい、地域内外との交流活動を通じてネットワーク拡大を目指す地域・人づくりを支援する。
令和7年度予算額	400,000円
事業実施年度	令和3 年度 ～
これまでの主な事業実績	(令和6年度の主な事業実績) ①チーム会議(随時) ②大鳥池登山(7月) ③笹の葉取りボランティア(8月) ④六十里越街道歩き(11月) ⑤おかえりイルミネーション(12月) ⑥笹巻作り体験(2月)

令和7年度の事業内容

★令和7年4月時点 WaGeSho会員数:19名

★実施した事業

- ①落合集落河川整備活動(6月～8月) ※3回実施
近年管理がされていない河川を整備し地域の方の憩いの場を用意することで、交流できる機会をつくることできた。
- ②大鳥池登山(7月)
地域の若者が朝日地域の豊かな自然を体験することで、見て感じたことをInstagram等のSNSを介して、地域内外の人に魅力を発信することができた。
- ③笹の葉取りボランティア(8月)
伝統食である笹巻の原料となる笹の葉取りに協力することで、地域文化の継承につなげるとともに交流することができた。



①落合河川整備



②大鳥池登山



③笹の葉取り

★予定している事業

- ①サンチュアパークキャンプ&テントサウナ(9月)
- ②六十里越街道歩き(10月)
- ③おかえりイルミネーション(12月)
- ④かんじき歩き体験(1月)

取組みの成果・評価

- ・令和3年度からの活動継続により認知度が高まってきている。(令和7年8月広報つるおか記事掲載)
- ・メンバーはそれぞれが朝日地域の特徴や魅力を発信できるような企画や活動をしており、地域で何かイベントを行う際には『WaGeShoへ』という意見も多くなっている。
- ・SNS等を活用し、地域外の出身者も取り入れながら、直接活動に参加できなくても間接的に関わることができる仕組みを構築して若者同士のネットワークを形成している。
- ・若者視点による朝日らしいイベントを企画しており、朝日の魅力発信に大きく貢献している。

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	朝日地域大鳥地区移動支援モデル事業
事業目的	学校、病院などの生活利便施設への交通を確保するため、地域の実情や需要に応じた、利用者の視点に立った地域内交通対策を推進する。
事業概要	・大鳥地区内で地域ボランティアによる「互助運送」の実証試験運行に対する支援。 ・地域住民がボランティアの運転手となり、利用者を目的地まで輸送する。 【大鳥地区村づくり推進協議会に対する補助金】
令和7年度予算額	433,000円
事業実施年度	令和6年度～
これまでの主な事業実績	・令和6年度実証運行 令和6年8月1日～令和7年3月31日 ・利用者数 8月：2名、9月：0名、10月：0名、11月：1名、12月：0名、1月：0名、2月：0名、3月：1名

令和7年度の事業内容	
・実証試験運行期間 令和7年4月1日～令和8年3月31日 ・運行日・運行時間 平日の8時～16時 ※土日祝、お盆期間(8/10～8/18)、年末年始(12/28～1/5)を除く ・乗降場所 乗り場：利用者の指定した場所から(自宅乗車可能) 降り場：大鳥地区～朝日庁舎間※ ※公共交通が走らない時間帯に限定 ・利用者 大鳥地区に居住する住民 ・利用料金 無料 ※市補助金と中山間直接支払制度を活用	 車両外観  利用の様子

取組みの成果・評価
・令和5年10月に廃止となった庄内交通路線バス大鳥-上田沢区間の代替手段として互助輸送を実施しているが利用の定着には至っていない。理由として自家用車を活用している世帯が多いことと時刻、行先が限定されていることが伸び悩んでいる原因と考えられる。 ・自家用車を持っておらず、足腰が不自由な複数の方が定期的に利用をしている。利用者からは「とても便利で使いやすい。また使いたい」との意見をいただいている。 【R7.8月時点の実績】 4月：1名、5月：0名、6月：3名、7月：3名、8月：2名

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	朝日地域共創プロジェクト支援事業
事業目的	中山間地域の課題解決に向け、デジタル技術を活用した市民サービスの提供、地域づくり活動での活用支援、地域デジタル人材の育成を推進する。
事業概要	朝日中央地区自治振興会が取り組む、デジタル技術を活用した以下の事業展開に対応する支援。 ・地域住民によるデジタル人材の育成 ・地域住民を対象にしたスマホ講習会の開催 【朝日中央地区自治振興会に対する補助金】
令和7年度予算額	280,000円
事業実施年度	令和5年度～
これまでの主な事業実績	○デジタル人材育成研修 ・開催回数 令和5年度 6回、令和6年度 3回 ・受講者数 令和5年度 36名、令和6年度 20名 ○集落・団体等を対象にした出張スマホ教室 ・団体数 令和5年度 4団体、令和6年度 4団体 ・参加者数 令和5年度 40名、令和6年度 45名 ・講師協力者 令和5年度 延べ20名、令和6年度 延べ35名

令和7年度の事業内容

①デジタル人材育成及び支援体制の構築
地域住民を対象にしたデジタル人材育成講習の開催

②地域住民を対象としたスマホ講習会の開催
デジタル技術の活用に苦手意識を持つ地域住民を対象に、地域内で育成するデジタル人材によるスマホ講習会を実施

③公式LINEの運用開始

公式LINE開設・運用説明会

～ 今後の予定 ～

○集落・団体等を対象にした出張スマホ教室の開催
(3団体を予定)

谷口サロンスマホ教室



取組みの成果・評価

・デジタル機器やデジタル技術を活用したサービスなど気軽に地域で学び合える環境づくりを進めることができた。
・スマホ講習会の開催により高齢者を中心にデジタル活用を身近に感じてもらう機会の創出と、地域の若者との世代を超えた交流が図られた。
・地域課題の解決に取り組む「朝日地域共創プロジェクト」への積極的な参加を促し、地域の多様な人材が活躍できる環境づくりにもつなげていく。

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	朝日地域助け合い玄関前除雪支援事業		
事業目的	雪による経済的及び精神的負担を軽減する克雪対策の取組を進め、定住環境の整備を推進する。		
事業概要	広域コミュニティ組織が行う自力除雪が困難な高齢者世帯等の玄関前除雪に対する支援 【広域コミュニティ組織に対する補助金】		
令和7年度予算額	330,000円		
事業実施年度	令和元 年度 ～		
これまでの主な事業実績	【支援実績】		
		南部地区	東部地区
	令和元年度	2 グループ・ 5 世帯	2 グループ・ 6 世帯
	令和2年度	3 グループ・10 世帯	2 グループ・ 3 世帯
	令和3年度	4 グループ・11 世帯	2 グループ・ 3 世帯
	令和4年度	3 グループ・ 8 世帯	2 グループ・ 3 世帯
	令和5年度	3 グループ・ 8 世帯	2 グループ・ 3 世帯
	令和6年度	3 グループ・ 6 世帯	2 グループ・ 3 世帯
	合計	18 グループ・48 世帯	12 グループ・21 世帯
		30 グループ・69 世帯	

令和7年度の事業内容	
広域コミュニティ組織による除雪機を所有する支援者と自力での除雪が困難な高齢者世帯等をグループ化して行う玄関前除雪に係る経費を助成する。(朝日南部・東部地区を予定)	
補助対象経費	補助金の額
1 事業期間中の除雪機械に係る自賠責保険料及び任意保険料	全額(上限4月)
2 除雪機械の修繕料	全額(上限2万円)
3 燃料費(要支援者の除雪に係る部分に限る。)	全額(上限2万円)

取組みの成果・評価
①広域コミュニティ組織を実施主体とした、地域内互助による高齢者世帯等の支援が継続して行われている。
②グループ数・世帯数が固定化しつつあり、より多くの支援ができるような工夫が必要である。
③優良事例や地域ニーズ等を参考にしながら、今後の事業展開について検討していく。

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	大泉地域ビジョンスタートアップ支援事業【新規】
事業目的	将来的な大泉地域の持続的発展に向け、地域資源の活用や地域住民の生きがいづくりなど、地域の活性化に向けた取組が求められていることから、大泉地域ビジョン策定委員会により令和6年3月に「大泉地域ビジョン」が制定された。 このビジョンの具現化を進め、中山間地域の暮らしを楽しみながら住み続けられる地域として発展することを目的とする。
事業概要	大泉地域ビジョンを推進し地域の振興に資するため、大泉地域ビジョン推進委員会が行う地域資源を活用した農林産品の研究開発等に対し、補助金を交付する。
令和7年度予算額	545,000円
事業実施年度	令和7年度～

令和7年度の事業内容

1. 森林資源の活用に地域ぐるみで取り組む事業
 - ふるさと納税品目の発掘に向けた森林資源の活用を学ぶ先進地研修視察
 - 地域に適する山菜・きのこの研修講座・フィールドワーク(県森林研究研修センターの協力)
 - ふるさと納税品目の新規取り扱い(包装容器のデザイン依頼・包装容器の発注)
2. 観光資源の掘り起こしで来訪者を呼び込む事業
 - 下田沢かたくり園・大平わらび園の閑散期の活用事業の検討
 - わらびの成分分析と報告会の実施、また分析内容をパネル化し大平ワラビ園へ掲示
3. コミュニティ機能の再構築と地域の絆づくり事業
 - 畑作寺子屋の開催と収穫した作物を使った弁当づくり(高齢世帯への配食サービス)

【畑作寺子屋の実施状況】



5/19 上田沢



6/19 上田沢

取組みの成果・評価

■事業効果

- 耕作放棄となっている農地や未利用の山林の有効利用
- 農林産物の販売による農家・非農家の収入確保と農業経営体の育成
- 農林業を通じた生きがいづくりと住み続けられる地域づくり

■今後の展望

- 中山間地でたくましく、楽しく、豊かに生きる力を養い、持続可能な地域運営を目指す。

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	かたくり温泉運営支援事業
事業目的	温泉利活用による地域住民の健康増進とコミュニティ活動の充実を図り、健康寿命延伸と暮らしやすい地域づくりを推進する。
事業概要	運営事業者へ補助金を交付し、安定継続した運営に向けて支援を行う。
令和7年度予算額	10,500,000円
事業実施年度	令和6 年度 ～
これまでの主な事業実績	【令和6年度】 営業日数303日 入浴者数40,651人(大人38,940人、子ども1,711人) 134人/日 5 / 5(日) こどもの日イベント (50人) 6 / 23(日) あさひマルシェ (200人) 10/13(日) すだち祭り (100人) 11/23・12/7・21 かりん風呂 (440人) 12/1～24 年末大抽選会 (抽選券付き回数券販売) 2/ 1(土) 冬の感謝祭 (150人)

令和7年度の事業内容
・かたくり温泉ぼんぼは源泉設備の不具合により5月18日から温泉営業を休止している。専門業者の調査の結果、老朽化により源泉井戸の復旧は困難との報告があったことから、市は既存の源泉井戸の修繕は行わないこととした。新たな源泉井戸掘削は、庁内関係部局や地域の関係団体等と協議を行いながら検討する。 ・温泉営業の休止が長期に渡る見通しだが、運営事業者は市からの温泉施設の借受は継続し、施設を活用した健康増進事業、地域振興に資する事業を実施することとしている。 軽スポーツ教室、レクリエーション用具貸出、トレーニングスペース開放、 あさひマルシェ、トレッキングイベント、リユース支援事業 他 ・市は、温泉運営に係る光熱水費・燃料費等を対象としている「かたくり温泉運営支援事業補助金」の補助対象事業や補助対象経費を組み替え、事業活動への支援を行う。

取組みの成果・評価
温泉休業期間も、温泉施設を拠点に地域住民が集う交流の場、健康増進、介護予防事業の場として、隣接する「健康の里ふくら」と地域の観光資源を活用した事業を実施し、これまで温泉を活用して進めてきた健康福祉・地域活性化の取り組みを継続する。

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	朝日地域フレイル予防事業
事業目的	・高齢者に対する介護予防事業の充実により、年齢を重ねても住み慣れた地域での自立した日常生活を実現する。 ・介護予防事業への参加を目的とした定期的な外出機会が増えることにより、高齢者の社会参加が促進され、生きがいづくり、居場所づくり、地域支え合いの仕組みづくりを推進する。 ・高齢期を迎える前の年代からフレイル予防に取り組む人を増やし、地域住民の健康寿命延伸が図られることで、要介護認定率の低下を目指す。
事業概要	高齢者を対象とした介護予防事業及び高齢期前の年代を対象としたフレイル予防事業を実施する事業者へ補助金を交付する。
令和7年度予算額	2,000,000円
事業実施年度	令和6年度～
これまでの主な事業実績	【令和6年度】 (1)65歳以上対象 いきいきぼんぼ 延べ参加者数439人(32回) (2)50歳以上対象 ぼんぼ健康教室 " 434人(44回) (ヨガ、筋トレ、ストレッチ、ピラティス 他)

令和7年度の事業内容																			
令和7年度 朝日地域フレイル予防事業計画																			
対象年齢	事業内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	備考				
65歳以上 いきいきぼんぼ	① いきいきぼんぼ			3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	33回	金曜日 9:30～15:00 温泉入浴、昼食あり				
概ね 50歳以上 ぼんぼ健康教室	② ぼんぼスッカリ教室 講師 佐藤しおり先生		2	1	2	1	2	1	2	1	1	1	1	15回					
	③ ゆっくり体力アップ教室 講師 みしなれい先生		1	2	1	2	1	2	1	2	1	1	1	15回					
	④ ワナゲ道場		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	22回					
	⑤ コンディショニング教室 講師 澤田美佳先生			2	2	2	2	2	2	2	2	2		18回	あさひスポーツクラブ主管 木曜日 19:15～20:15				
	⑥ チャレンジスポレク教室 講師 あさひスポーツクラブ			2	1			1	1	2	1	1	1	11回	あさひスポーツクラブ主管 グランドゴルフ、モルック、ポッチャ、 パドミントン、ピラティス、レクリエーション				
	⑦ ノルディックウォーキング 講師 あさひスポーツクラブ							1						1回	あさひスポーツクラブ主管				
	⑧ ドライフラワーアレンジメント教室 講師 渡部小枝さん											2		2回	あさひスポーツクラブ主管				
		0	8	12	11	10	12	11	12	13	10	10	8	117回					



いきいきぼんぼ



からだスッカリ教室



コンディショニング教室

取組みの成果・評価

- ・「いきいきぼんぼ」参加者を対象としたアンケート結果では、9割の方が「毎回参加するのを楽しみにしている」、「地域の人とのつながりが深まった」と感じており、地域とのつながりが生まれることで高齢者の社会的孤立を防ぐことにつながっている。
- ・あさひスポーツクラブと連携し、対象を50歳代に引き下げ取り組んだフレイル予防事業の実施により、早めの介護予防への理解を深め継続して取り組む人が増えている。(あさひスポーツクラブ会員数(大人)R6.3:55人→R6.12:81人)
- ・参加者が固定化しつつあるため、事業周知に力を入れ新規参加者の獲得を目指す。

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	朝日地域山の恵み産地化事業 ①山の恵み産地化事業 ②あさひの特産応援事業
事業目的	中山間地域である朝日地域の農林業、特産林産物の持続的な振興及び地域の活性化を図る。
事業概要	① 山の恵み産地化事業 山間部からの農産物の集荷、産直を核とした販売、市街地への移動販売などにより生産者の意欲、所得の向上、市内の買物弱者の負担軽減、販路拡大につながる取組に支援する。 ②あさひの特産応援事業 地域の農産物や森林資源を活かした特産品の創出、付加価値向上などの取組に支援する。
令和7年度予算額	1,600,000円(内訳①1,200,000円 ②400,000円)
事業実施年度	令和元 年度 ～
これまでの主な事業実績	①中山間地域の生産者への集荷と販売 市街地での移動販売等 栽培技術研修(原木きのこ講座・山菜栽培講座・山のもの栽培講座等) 体験イベント開催(笹の葉採りから始める笹巻作り体験) ②令和3年度 事業2件に対し、600,000円を交付 令和4年度 事業1件に対し、184,000円を交付 令和5年度 1件申請があったが、取り下げたため交付額なし 令和6年度 事業2件に対し、398,000円を交付

令和7年度の事業内容	
① 山の恵み産地化事業…産直あさひ・ゲーの取組に補助 ・出荷手段のない中山間地域の生産者への集荷と販売 市街地での移動販売等の取組 ・栽培技術の研修会の開催 ・地域で採れる特産の体験イベント開催 【7/22: 笹の葉採りから始める笹巻作り体験開催10名参加】 ②あさひの特産応援事業 ・事業募集: 市HP、朝日地域内定期配送(隣組回覧) R07.04.30: 第1次募集(募集期日: R07.06.10) R07.06.30: 第2次募集(応募期限 毎月 月末(最終締切: R07.12.26)) ・申請状況: R07.08末 申請者なし	

取組みの成果・評価
①山の恵み産地化事業 ・市街地への移動販売について、朝日地域から届けられる商品は良質な物が多いと毎回楽しみにしている固定客も多いため、買い物弱者の負担軽減等には一定の成果があると考えられる。 ②あさひの特産応援事業 ・昨年度までの反省により、チラシへの参考例記載、加工商品取扱い者等来庁時の事業周知をしているが、申請者がいない状況。また、周知時の聞き取りにより、事業内容の取組をすでに自費のみで実施しているなども複数あり、農業関係者への周知が継続課題である。

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	朝日地域拠点形成事業【新規】
事業目的	健康の里ふっくらを拠点とした「健康・生きがい・交流」の機能を備えた施設を整備する。
事業概要	関係者からの意見を聴取し整備の方向性をまとめる。
令和7年度予算額	610,000円
事業実施年度	令和7年度～

令和7年度の事業内容
①基本計画を策定するため関係者からの意見聴取をする。 〈 参集範囲の想定 〉 ・現在の利用者・利用団体など 例)・老人クラブ ・子育て世代 ・食生活改善委員会 ・保健委員会 ・NPO法人こみっとAFC など ・地場産業生産物の販売などを検討するため 例)・農業者・製造業者 ・商工会関係者 ・あさひ村直売施設管理運営組合 等 ②アドバイザーの招聘

取組みの成果・評価

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	大鳥池避難小屋衛星通信実証実験事業【新規】
事業目的	大鳥池避難小屋の敷地内に衛星通信機器を設置することで、Wi-Fi環境を整備し、朝日連峰登山客の安全と利便性を確保する。 副次的に、「東北初」避難小屋への設置という話題性を活かし大鳥池、以東岳登山のPRを行い、登山者の増加による関係人口の拡大を目指す。
事業概要	スペースX社が提供するStarlink(スターリンク)を設置し、圏外であった大鳥池避難小屋敷地(周囲約50m圏内)にインターネット環境(Wi-Fi環境)を整備し、朝日連峰登山者の安全と利便性を確保する実証実験を行う。
令和7年度予算額	820,000円
事業実施年度	令和7年度～

令和7年度の事業内容
1. Starlink本体及び付属品の購入 落札者: KDDIまとめてオフィス株式会社 山形支店 2. Starlink運搬・設置・運用 委託先: 自然公園管理員 佐藤 義幸 氏 衛星通信機器の歩荷(7/3)、設置後の日常的な機器の管理、パスワード発行等の事務 3. 各媒体で避難小屋のStarlink設置に関する広報、宣伝 チームWaGeShoに依頼し、WaGeSho大鳥池登山の際に、LINE電話で、麓の大鳥地区住民や自宅で待機しているWaGeShoのメンバーと会話できるか実験を行った。(7/5)

取組みの成果・評価
・登山者の安全がより一層確保される。 ・東北地方初、避難小屋への設置という話題性をPRすることによって、利用者の増加による関係人口の拡大が図られる。

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	朝日地域観光あいのりタクシー運行事業
事業目的	観光需要が集中する夏季に観光客の二次交通を確保し誘客増加を図る。
事業概要	あさひむら観光協会が実施する、夏季における観光客の二次交通を確保するための試験運行へ支援を行う。【観光協会への補助金】
令和7年度予算額	850,000円
事業実施年度	令和5年度～
これまでの主な事業実績	令和6年度 ・実施計画 運行期間:7月12日～10月14日(47日間) 便数:94便(一日往復) 運賃は「時間制(貸し切り)」での実施 令和6年度実績: 運行13日間/全44日間 (悪天候により運休3日間:9/21～23) 14便運行・30名利用 (予約システム利用者は115名)



あいのりタクシー乗車前の様子

令和7年度の事業内容
タクシーの相乗り制度を活用した「朝日地域観光あいのりタクシー運行事業」の実施する。 ・7月11日(金)から10月13日(月)までの4か月、47日間 ・運行日は金・土・日・祝祭日 ・発着地について、エスモールから泡滝ダムまで運行する。(R7年度から朝日庁舎発着を廃止) ・試験運行最終年として、本格運行に向けたノウハウの蓄積を図る。 【令和7年度実績(8月24日現在)】 行き(エスモール・朝日庁舎→泡滝ダム):運行6回、乗車人数19名(予約数20名) 帰り(泡滝ダム→朝日庁舎・エスモール):運行3回、乗車人数5名(予約数9名)

取組みの成果・評価
朝日地域への観光誘客と登山者の二次交通確保の要望に応えることができ、地域の活性化につなげることができた。鶴岡市内の旅客サービス運行事業者と連携し誘客促進することで、地域経済や観光振興など多面的に地域活性化が図られた。アンケートの回答でも、アクセスが難しい登山タクシーの継続を求める声があった。

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	六十里越街道魅力発信事業
事業目的	六十里越街道の魅力を更に広く効果的に情報発信する取組や、地域の歴史的資源を次世代へ伝える取組への支援し、誘客を促進する。
事業概要	地域の若者や子どもたちを対象に六十里越街道に触れ合うイベントや、SNSの活用など目にする機会を増やす取組について支援を行う。 【アルゴディア研究会、あさひむら特産品開発協議会への補助金】
令和7年度予算額	550,000円
事業実施年度	令和4年度～
これまでの主な事業実績	令和5年度 ・チームWaGeShoと協力し、若者向けの六十里越街道トレッキングを実施。(6月25日、12名参加) ・チームWaGeShoのメンバーがトレッキングの様子を撮影・編集し、チームWaGeShoのSNSやあさひむら観光協会のYouTube等で情報発信の試行を行った。 令和6年度 ・SNS・映像づくり講習会の開催(10月5日、11名参加) ・講習会后、地域の若者を対象とした古道歩きイベントの開催(11月4日、13名参加) ・古道歩きでは、講習会で学んだテクニックを使って街道を様々な角度から撮影。チームWaGeShoのInstagramで発信した。



WaGeSho街道歩きの様子
(令和6年度)

令和7年度の事業内容

1. 未来の山船頭人育成プロジェクト

- ・山船頭人育成にむけて、六十里越街道に関する講座を開催することで、六十里越街道への理解と関心を高める。
 - A. 山船頭人コース(全7回)…入門講座(座学)+街道歩きの現地学習(実技)
 - B. 入門講座(全3回+修了式)…座学のみ
- ・講座の様子を一部アーカイブし、受講し当日来れなかった人も学べるようにする。
- ・アーカイブを残していくことで、山船頭人のノウハウを蓄積し、育成カリキュラムの構築を通じて後世に伝える事ができるようにする。

2. 「六十里越街道弁当」の開発

- ・街道の名前を冠した弁当の開発を、あさひむら特産品開発協議会に依頼
 - すでに試作品が完成し、試験的に街道歩き等のイベントで提供し、参加者からヒアリングしている。
 - ・単に弁当開発をするのではなく、朝日地域内で「朝日地域のごちそうと言えバ？」などの人気投票や、アンケートを実施し、街道弁当開発の認知を高める中で、六十里越街道を再認識し、地元を巻き込んだする機会にする。
- アンケート実施対象:あさひ小、朝日中、高校生・若者世代(SNS、かだんこの会、チームWaGeSho)、その他の世代はコミセンを通じて実施

取組みの成果・評価

六十里越街道への理解を深めるとともに愛郷心を醸成し、街道整備等の担い手となり得る人材の育成及び地域への関わりを持ち続ける動機付けとすることが期待できる。

令和7年度 朝日地域まちづくり未来事業

事業名	桧原二ノ俣峠越山道復元事業	
事業目的	・登山道の整備を実施し、登山者を受け入れる。 ・古道復活による登山者の増加や、イベントの開催等による地域活性化を図る。	
事業概要	登山道利用を目指し、関係団体が行う刈払い等を支援する。 【地元団体への補助金】	
令和7年度予算額	100,000円	
事業実施年度	令和4年度～	
これまでの主な事業実績	令和4年度 100,000円交付 令和5年度 100,000円交付 令和6年度 100,000円交付 ・10月4日 山道草刈り作業実施 ・11月8日 山熊田集落まで踏破 （集落の方々との交流）	 R6草刈作業の様子

令和7年度の事業内容
桧原二ノ俣峠越山道復元協議会が実施する草刈り等の作業に対し、補助金を交付する。草刈り等を行うことで、山道の整備を行い、登山者の受け入れ態勢を整えていく。

取組みの成果・評価
本事業において、荒廃した山道整備が図られ、かつて存在していた大鳥地域から新潟県山熊田地域間の山越えルートが将来的に開通されることにより、登山者や歴史文化に関心がある人々の誘客が期待でき、地域の新たな観光資源の創出を図ることができる。

「鶴岡市過疎地域持続的発展計画」は、過疎地域である本市において、「過疎地域の持続的発展に関する特別措置法」に基づく支援措置を活用しながら総合的かつ計画的な対策を実施することによって、本市の「持続的な発展」を推進して行くための計画です。

1. 計画期間

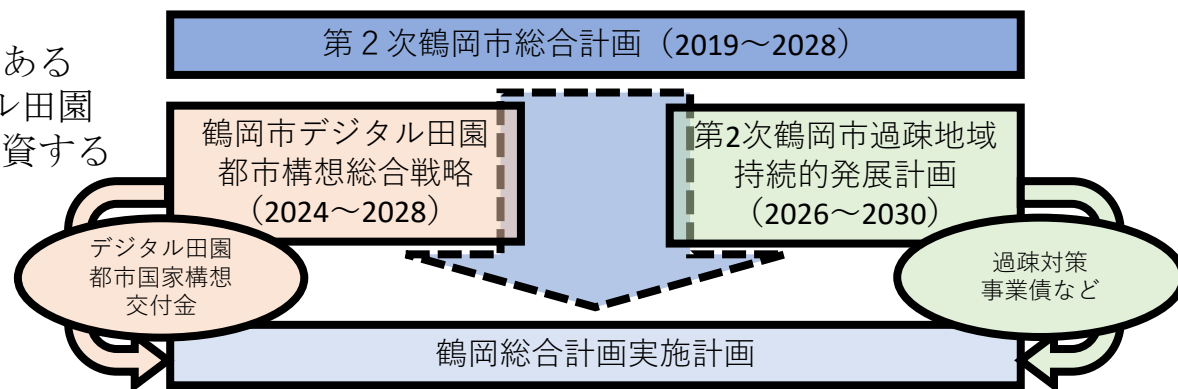
令和8年度～12年度（2026年度～2030年度）

2. 過疎区分

市全域が「みなし過疎」（一部過疎の要件を満たす地域：藤島・朝日・温海地域）

3. 市過疎計画の位置付け

過疎対策を全市的な課題として捉え、上位計画である「第2次鶴岡市総合計画」に即し、「鶴岡市デジタル田園都市構想総合戦略」と並立した本市の持続的発展に資する事業計画として策定しています。



4. 市過疎計画の基本方針

- (1) 住民の暮らしと安全安心の確保
- (2) 地域資源を活用した魅力の創造
- (3) 集落の維持・活性化と広域化による対応
- (4) 人の流れの創出と新たな担い手の育成
- (5) デジタル技術の活用

5. 市過疎計画における実施すべき施策

- (1) 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成
- (2) 産業の振興
- (3) 地域における情報化
- (4) 交通施設の整備、交通手段の確保
- (5) 生活環境の整備
- (6) 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進
- (7) 医療の確保

- (8) 教育の振興
 - (9) 集落の整備
 - (10) 地域文化の振興等
 - (11) 再生可能エネルギーの利用の促進
 - (12) その他地域の持続的発展に関し必要な事項
- ※下線箇所は市として想定する重要事業

- 過疎法内で市町村計画の事項として掲げられているもの
- 地域振興懇談会で協議された主要事業などを施策に反映

現状

基本方針（目指す将来像）

「誰もが幸福を実感できる暮らしを支え、市民とともに育む
『持続可能な交通』の実現」

～住み続けられるまちを支える、交通ネットワークの構築～

- 現行計画（計画期間：R3～7年度）**
- 令和3年3月に「鶴岡市地域公共交通計画」を策定。
 - 市内循環線の再編や各地域の交通再編などは全て上記計画に基づき実施されたものであり、本市の交通に関する方針の根幹となっている。
 - 現計画は計画期間が5年間であり、令和7年度末に失効することから、失効前に新計画に更新する必要がある。
- 地域の実施状況（路線バス廃止に伴う地域公共交通の再編 等）**
- 藤島地域：既存の運営協議会を拡大し、藤島全域をカバーするデマンド交通と定時定路線「ふじつる号」の運行を開始
 - 羽黒地域：公共交通利用促進「お出かけモデル体験ツアー」の実施
 - 櫛引地域：ゆ～Town線廃止に伴いデマンド交通の指定場所を追加
 - 朝日地域：定時定路線「あさひバス」と「あさひデマンド」の運行を開始
 - 温海地域：利用者ニーズを踏まえ指定目的地を追加

策定方法

- 令和7年度中に計画を策定**
- 令和7年度末に計画期間終了となることから、令和8年3月末策定に向けて、改定作業を進めている。
 - 策定主体：鶴岡市地域公共交通活性化協議会（会長：副市長 構成員：交通事業者、山形運輸支局、警察、住民代表等）
 - 市民向けアンケートや事業者ヒアリング、県、交通事業者より提供される乗降データ等の分析により、本市の公共交通における現状把握や課題を整理し、具体的な施策を検討する。
 - データの収集や課題の整理に、コンサルの支援も活用する。

次期計画の方針

基本方針（イメージ）

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられる
持続可能な交通ネットワークの構築

1. **前計画以降顕在化した背景**
- 運転手の人手不足、人件費や燃料費の高騰。
 - 庄交バスの路線廃止に伴う代替手段導入のための地域内交通の再編。
 - 高齢化の進行等により、地域公共交通に期待される役割・ニーズ・需要の多様化
2. **基本的な考え（現行計画から継続）**
- 市内循環線や市街地と郊外地を結ぶ路線は、基本的に庄内交通が担う。
 - 庄内交通で路線の維持が困難になった場合は、各地域に合った形の交通手段の導入を検討。
3. **新たな検討事項**
- 運転手不足と働き方改革への対応
 - 地域公共交通に期待される役割・ニーズ・需要に対応するため、多様な輸送資源の利活用促進
 - 再編を実施した地域においても、住民ニーズの把握を継続し、必要に応じた見直し
 - 利便性向上や利用者数の増加施策を検討し、路線の維持を図る。

事業の効果

- 今後5年間およびそれ以降の本市の公共交通の基本的な方針を定めることにより、一貫した交通施策を実施することができる。